

昭和37年9月20日生
平成23年4月福岡県議会議員初当選
平成27年4月再選
添田町立添田小学校・添田中学校卒
福岡県立田川高等学校卒
日本大学商学部会計学科卒
麻生セメント株式会社入社・株式会社
麻生情報システム取締役
株式会社麻生情報システム代表取締役
社長



さとし こうざき 聡 夢からはじまる

http://www.kouzakisatoshi.com



県政報告

食と緑を守る緑友会福岡県議団

平成31年1月号

緑友会福岡県議団・幹事長
県議会条例提案検討委員会・委員
文教常任委員会・委員
子ども・子育て支援調査特別委員会・委員

福岡県議会議員 神崎 聡

新年を迎えられ、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

九月定例県議会では、6月定例会に引き続き、日田彦山線について、JR九州の公共交通機関としての責務と知事の政治姿勢について、また、平成30年7月豪雨災害で被災した平成筑豊鉄道の復旧支援について、質問致しました。さらに、決算特別委員会では沿線自治体とJR九州との間で復旧会議検討会を設置していることを踏まえ、「日田彦山線の今後について」、また、女性がいきいき働き活躍できる社会に向けた、「女性の育児休暇後の職場復帰・キャリアアップ形成について」、県執行部に問い質しました。

いよいよ、今年の4月は、4年間の、県政の場で懸命に取り組んできた議会活動・議員活動の評価を、田川の皆さんに問われる選挙の年となりました。

2期8年、毎年のように襲ってくる災害、それに伴う公共交通網の寸断、高齢化社会の医療や介護問題、小中学校統合や学力問題、田川地域の資源を活かした観光戦略など、様々な課題に対して、提案を提言し、県執行部とともに、取り組んで参りました。

人口減少が進展する中にあるのは、女性、高齢者、障がいのある人などが活躍できる地域づくりが一層求められます。田川地域の特性や資源を活かした地域振興が重要となります。また、医療・介護、住まい、生活支援などを充実させることで、地域住民の生活に不可欠なサービスを確保する必要があります。私は、誰もが住み慣れた地域で暮らしていける地域づくりを進めなければならぬと思っています。

今後とも、皆様のさらなる、ご指導、ご鞭撻、また、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



スマートフォンでも県議会録画中継

ブログ報告



動画報告



フェイスブック



フェイスブックページ



ツイッター



9月定例会及び平成30年度決算特別委員会では、1年で8人もの県議員の不祥事問題について、従来知事がその再発防止策として力を入れていた職員研修の効果が全く現れておらず、その部分の決算について、県議会として22年ぶりとなる「不認定」とすることとなりました。

この県議員の不祥事問題とともに、福岡県と福岡市が対立している宿泊税問題、そしてJR日田彦山復旧問題で、議会は紛糾しました。

知事は政治生命をかける覚悟で問題解決に当たるという強い決意を示されましたが、具体的手法については、まだ疑問が残るところです。緊張感が続く議会となっています。

9月定例県議会 一般質問

「JR日田彦山線の復旧について」 「平成筑豊鉄道の豪雨災害復旧について」

《神崎議員》

皆さん、こんにちは。緑友会・立志福岡県議団の神崎聡です。

今から56年前、1962年、昭和37年9月20日、今日ですが、私は田川郡添田町に生まれました。

その1962年から遡ること、ちょうど90年前、1872年、明治5年、10月14日、皆さん、何の日か、ご存知でしょうか。新橋、横浜間を結んだ日本初の鉄道が開業した日であります。その開業から50年後の1921年、大正10年10月14日に鉄道開業50周年を記念して鉄道博物館が開館したことから、10月14日を「鉄道記念日」として制定し、現在では「鉄道の日」とされています。今年も「鉄道の日」を記念して、各鉄道会社では各種のイベントが実施されます。

私をはじめて汽車に乗ったのは母の里帰りの時でした。国鉄添田駅から日田彦山線に乗り、夜明駅で久大線に乗り換えての帰省でした。片道3時間ぐらいいかかったんじゃないかと思っています。物心ついた頃は妹をおんぶした母に手を引かれ、蒸気機関車の中で、はしゃぎながら乗っていました。特に、彦山駅から筑前岩屋駅の間の釈迦岳トンネルは、とにかく長く、まっ暗で、窓から顔を出すと、顔がすすだらけになりました。楽しい列車の旅だったのを、おぼろげながら記憶しています。

全長4,380m、1956年に完成するまで、19年も要した難工事のトンネルで、筑前岩屋駅付近には、工事で犠牲になった人たちの慰霊碑が建てられていることを、先日、JR九州を退職された方から話を伺いました。完成当時は九州で一番長いトンネルだったそうです。

「先輩たちが、苦勞に苦勞を重ねて繋いでいった日田彦山線、何としても復活してもらいたい。」そう話されていました。私はきつと、JR九州の社長をはじめ、JR九州の社員の皆さん、鉄道関係者の方々も同じ想いなのではないかと思いました。

《神崎議員》

初めに、JR日田彦山線の復旧についてお尋ね致します。

JR九州は、昨年の九州北部豪雨で一部不通になっていた久大本線を7月14日に運転を全線で再開しました。当日、特急「ゆふいんの森号」の出発式には、知事も出席されていたと思いますが、大変うれしいニュースでありました。

一方で、久大本線と同様に九州北部豪雨で大きな被害が発生した日田彦山線です。いまもお、不通になっている添田・夜明間の29.2kmが、運転再開の目標時期も示されておらず、そこどこか復旧工事に着手するめども立っていません。

今議会でも、自民党県議団の代表質問や、我が会派の代表質問にも取り上げられましたように、日田彦山線復旧会議の、実務者による検討会で議論をしている最中、JR九州の青柳社長は、7月25日の記者会見で、所有者と運行事業者を分ける「上下分離方式」を、復旧後の運行形態の一案として、沿線自治体との協議会で議論する考えを示しました。

また、8月27日の記者会見では、復旧方法などを巡る自治体との協議がまとまらない場合、バスなど鉄道以外による交通網の維持を提案する可能性を追及されたんがあります。

ご承知の通り、6月15日、議員立法で提出され、審議が続いていた鉄道軌道整備法の改正法案が、国会議員の先生方をはじめ、多くの政治家の皆さんのご尽力で、参院本会議において全会一致で可決・成立しました。

まさに政治が大きく動いた瞬間でした。その直後に、その対象となる日田彦山線について述べられた、JR九州社長の一連の発言は、改正鉄道軌道整備法をいざしるにしたかのような発言であり、非常に遺憾で、誠に残念でありました。



そこで知事にお尋ね致します。JR九州の青柳社長の一連の発言の真意はどこにあるとお考えでしょうか。

《小川知事》

日田彦山線の復旧につきましては、議員もご指摘がありましたけれども、JR九州の青柳社長から、「鉄道で復旧したいので、協議の場に参加してもらいたい。」、その申し入れがありましたことから、本県、大分県、沿線市町村、JR九州による「日田彦山線復旧会議」、これを設置いたしまして、実務者レベルの検討会においてはその協議を行ってきたところであります。

こうした協議のさなかに、JR九州の青柳社長が定例記者会見におきまして、運行費用の負担や鉄道以外での運行といった、協議の場に提案すらされていないことを発言されました。

今までの経緯から見ても、その真意のほどは図りかねるところでございますけれども、このことは、鉄道での復旧を切望しておられます沿線住民の方々、そして我々、自治体に大きな不安と不信感を与えるものでございます。

私といたしましては、事業者であるJR九州が、公共交通機関としての使命感を持って、主体的に鉄道で復旧すべきであると考えておりまして、本来の協議の場でございまして「日田彦山線復旧会議」を早期に開催をし、鋭意、協議を進めていく考えであります。

《神崎議員》

そもそも日田彦山線の復旧については、代表質問で答弁頂きましたように、JR九州の青柳社長からの提案で、鉄道で復旧するための日田彦山線復旧会議が立ち上がった経緯があります。にもかかわらず、このような一連の発言は、復旧会議を混乱させるようなもので、沿線自治体や県に対して条件を引き出すために、政治的な駆け引きをされているようにも思えます。その真意を確かめるためにも、小川知事とJR九州の青柳社長とのトップ会談が重要だと考えますが、知事はJR九州の社長と直接お会いになって会談されないのでしょうか。お尋ね致します。

《小川知事》

実務者レベルの日田彦山線復旧検討会を、スピード感を持って進めなければなりません。政治問題化された「日田彦山線の復旧問題」に対して、知事として、今後どのような行動をとられ、沿線自治体及び住民の期待に添えていくのでしょうか。お尋ね致します。

知事が考える日田彦山線の全線再開までの議論の進め方、復旧の方法、開通の時期など具体的な道程をお示し下さい。

また、日田彦山線は大分県との連携が欠かせません。日田彦山線の復旧に関して、これまで大分県知事と直接お話しはされたのでしょうか。今後、どのように連携を深めていくのかお尋ね致します。併せて、九州地方知事会でのローカル線維持のための議論はどのような進められているのかお聞かせ下さい。今こそ、財務省や監督官庁である国土交通省に働きかけを行うなど、知事の政治力が問われている事案だと考えますが、知事の決意をお尋ね致します。

《小川知事》

これまで、「日田彦山線復旧会議」の下に設置をいたしました実務者レベルでの検討会で、協議を重ねてきたわけでございまして、7月20日に開催されました同検討会におきましては、

①福岡・大分両県からは、災害復旧事業を活用することで、JR九州が当初提示をいたしておりました70億円の鉄道復旧費は、56億円まで低減できること

②また、沿線市町村からは、日田彦山線の復旧後の継続的な運行を確保するため、利用促進のための具体的な取組みを行うこと及びその内容について、それぞれ提示をしたところでありました。

その上で、年度内に議論をまとめ、早期着工を目指していくことで関係者の合意が得られたところであります。

今後とも、鉄道での復旧、これを大前提といたしまして、一日も早く沿線住民の方々が被災前の利便性を取り戻していただけるよう、関係自治体と連携して、協議を進めてまいります。



《小川知事》

大分県知事とは、九州地方知事会など直接お会いする機会をとらえまして、また、必要に応じ、電話で協議を行い、常に情報を共有し、意思の疎通を図ってきているところでもあります。

また、5月22日に開催された九州地方知事会におきましては、「JR九州が保有する鉄道ネットワークは、日常生活や経済活動のあらゆる面で、私も九州の発展には欠かせない重要な社会インフラであり、JR九州は、九州創生の重要なパートナーであることを再認識し、自らの役割をしっかりと果たしていただきたい。」、そういった声明文を九州地方知事会では採択をいたしまして、JR九州に対し、その申し入れを行ったところでもあります。

国への働きかけでございますけれども、これまで県議会とともに、関係省庁に対して、「日田彦山線の早期復旧」に係る要望活動を実施するとともに、九州地方知事会を通じて同様の要望を行ってきたところでございます。引き続き、国に対し、しっかりと働きかけを続けてまいります。

《神崎議員》

地方のローカル線をしっかりと守りながら株式上場を果たしたJR九州です。



鉄道事業の路線維持こそがJR九州の信用力の源だと思えます。それこそが安心・安全で信頼されるJR九州の企業価値であり、JR九州のブランド力ではないのではないのでしょうか。

知事に一つ要望させていただきます。知事も存じだと思いますが、現在不通区間となつています道の駅・歓遊舎ひこさんの最寄駅として、平成20年3月15日に開業した歓遊舎ひこさん駅があります。JR九州の557番目の駅だということです。平成19年度福岡県産炭地域振興センター助成金交付事業から新駅建設事業として、32,628千円の助成金が出されています。添田町の自主財源36,254千円と合わせて、72,508千円が新駅設置の建設費となつています。

当時から、道の駅・歓遊舎ひこさんは、北九州市や福岡市からの多くのお客さんで賑わっていました。新駅を隣接に設置することで、鉄道による観光を充実させるとともに、観光客に旬の野菜などを提供し、道の駅とJR駅との相乗効果を期待していたはずだと思います。

JR九州もまた、日田彦山線に「ゆふいんの森号」を走らせたり、「特急、あそぼーい」の車両で行く日田彦山線の旅や、「SL人吉の客車で行く！日田彦山線の旅」を企画し、沿線市町村と一体となって観光PRや特産品販売などが開催されてきました。JR九州も日田彦山線を何とかしたいという思い入れもあるんだと感じます。

地元は誰もが鉄道が大好きなんです。JR九州と力を合せて鉄道利用に取り組んでいこうとする地元の熱意を是非、JR九州の青柳社長にお伝え頂きたいと思っています。

《神崎議員》

次に、平成30年7月豪雨災害によつて被災した平成筑豊鉄道についてお尋ね致します。

今回の豪雨災害で、線路の一部が被災するなどしたため、地域住民の日常生活にも影響が生じています。知事は、被災直後の7月12日、私も同行しましたが、不通となった田川線の田川伊田駅と崎山駅の間の被災現場などを視察されました。線路の下の盛土が崩壊したような状況を目の当たりにし、被害の大きさを痛感したと思えます。現地の方の話によると、イノシシが線路わきの土を掘り起こし、そこに雨水がたまり、大量の水が流れ込んできたため、崩壊したのではないかと言われていました。シカも鉄分を摂取するために線路に飛び出してきますが、有害獣は農林業の被害にとどまらず、交通網をもマヒさせる、私たちの日常生活を脅かす存在になっていることが改めて認識させられました。

我が会派も、知事に対し、早期全面復旧に向けた支援について要望を行ないましたが、そのことも踏まえ、今議会において、平成筑豊鉄道の復旧の後押しをするため災害復旧費を含んだ2千8百万円余の県予算案が提案されています。

今回の被害状況は9カ所、うち糸田線の1カ所は既に復旧されています。復旧費用はおおよそ1億9千万余になりそうだということです。

10月中には全線開通されると平成筑豊鉄道のホームページには掲載されています。

平成22年、平成24年に、豪雨災害で被災した時も、不通区間は、バス、タクシーによる代行輸送を実施してきました。今回は4カ月の間、不通となつていました。利用者は非常に不便な状態が続いています。

私の場合、高校生の子供を自宅から赤村の油須原駅まで毎日送迎しているのですが、油須原駅からの代行バスは犀川駅まで行き、そこから列車に乗りかえて新豊津駅まで行きます。油須原駅の代行バスは5時55分発です。これに間に合うためには、5時半には家を出なければなりません。朝食を取りますので、遅くとも5時に起床ということになります。子供も大変ですが、親も大変です。帰りはもっと大変で、先程の逆のルートで帰宅しますが、部活動がありますので、帰宅時間がとんでもなく遅くなります。

結局、余儀なく、毎日、ふた山越えて、みやこ町の学校までの送迎をしなければなりません。定期代は油須原駅から新豊津駅まで半年間で40,830円、田川伊田駅からですと57,140円です。決して安い金額ではありません。3カ月間の定期代が無駄になりました。

そこで知事にお尋ね致します。不通になつて3カ月以上になりますから、私でさえ、学校までの送迎に慣れてきました。従つて、平成筑豊鉄道の豪雨災害による顧客離れが心配です。今回の被災の損失が今後の経営にどのような影響が出てくるのか、それに対して、平成筑豊鉄道はどのような対策をとるのか、併せて県並びに沿線市町村はどのような支援や取り組みを考えているのかお尋ね致します。

また、JR九州とはイベント企画などで、どのような連携を取られているのか、平成筑豊鉄道は台湾鉄路管理局・平溪線との姉妹鉄道協定を締結されていますが、インバウンド需要をどのくらい見込んでいるのかお尋ね致します。

最後に、今後の自然災害の頻発化・大規模化を踏まえ、鉄道施設・設備の被害からの復旧に向けた支援スキームの拡充を図ることが必要であると考えます。今後の鉄道防災・予防保全の支援スキームの拡充とともに、どのようなお考えをお持ちなのかお聞かせ頂き、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

《小川知事》



平成筑豊鉄道では、1日も早く全線復旧するように、全力でその復旧工事を進めているところであります。10月中には運行再開ができる見通しとなつております。

一方、復旧まで一定期間を要しているため、収益の面では、運休期間の運賃収入の減少、これはもとより、運行再開後におきましても、議員が仰いました利用客離れによる運賃収入の減少が懸念されるところであります。

このため、会社におきましては、この利用客離れを防止するため、中・高校生の通学時間に合わせて代行バスを運行するなど、その利便性の確保に努めてきているところであります。

今後、市町村にも呼びかけまして、私も会社とともに、学校・企業訪問による定期券販売を積極的に実施する予定でございます。これに加えて、この災害復旧に係る予算をこの議会にお願いしております。ほか、県といたしましては、来春の観光列車の運行開始、また、田川伊田駅におけるマルシェの開設などを通じて、インバウンドを含めた域外からの利用客の呼び込みを支援することで、平成筑豊鉄道の経営改善につなげていきたい、そのように考えております。

10月に開催をいたします「へいちくフェスタ」とあわせて「JR九州ウォーキング」を実施するとともに、外国人向けのフリーパス「JR九州レールパス」、その購入者に対し、平成筑豊鉄道の1日乗車券が割引価格で購入できる特典を設けるなど、JR九州とは、その連携を図ってきているところであります。



小川知事は、県議会質問を受けて、10月17日に日田彦山線沿線の自治体トップなどと国土交通省を訪れ、早期復旧に向けたJR九州への指導を求めました。

また、10月25日にはJR九州青柳社長と大分県内でトップ会談を開き、今後の方向性を議論しています。

台湾鉄路・平溪線とは、双方の交流を強化し、知名度を高めることを目的といたしまして、今年5月、姉妹鉄道協定を締結したところであります。現在、会社では、①台湾最大の乗降客数を誇る台北駅などで、大型ディスプレイやポスターを使って平成筑豊鉄道の沿線のPR②使用済み一日乗車券を持参すれば、双方、相手側の鉄道に無料で乗車できる乗車券の交流③フェリスブックへの駅の写真投稿者に対する鉄道グッズのプレゼントこれらを予定しているところでございます。

台湾からは年間約29万人の観光客が福岡県を訪れております。平成筑豊鉄道の知名度を高めることによりまして、台湾からの利用客の増加、これにつなげていきたいと考えております。

鉄道防災・予防保全という点では、法面を固定する落石防護設備など鉄道施設の安全確保のための補助制度がございいます。県では、これまでもこの制度を活用し、支援を行ってきたところでございいます。

また、鉄道事業者が、災害に備え加入する土木構造物保険制度、こういう制度がございまして、平成筑豊鉄道もこの保険制度に加入しているところであります。

災害復旧時には、ご指摘の鉄道軌道整備法による国、地元自治体の支援制度がございまして、基本的には、これにより対応することになります。

しかしながら、仮に鉄道の存続にかかわるような、想像を超えるような大規模災害が起こった場合には、その状況に応じて、個々に対応していくことが必要になると考えております。

《神崎議員》再質問

再質問を一つさせて頂きます。

JR日田彦山線の復旧問題は、知事の政治力・政治力が問われている事案だと考え、知事の決意をお尋ね致しましたが、知事からは、「日田彦山線復旧会議」を早期に開催し、鋭意、協議を進めていきたいとのご答弁でした。関係者のトップ全員が揃った復旧会議を一日も早く行うことは当然だと思います。私はそんな、職員が作ったかのような、当たり前の答弁を期待したわけではありません。

知事は行政のトップというお立場と同時に県民から選ばれた政治家でもあります。今回のように、意見が対立し平行線をたどるような、難しい局面というのは、政治の世界では多々あります。職員による事務的な会議や、杓子定規的な会談だけでは、どうしても解決できない事案もあるのではないのでしょうか。それを乗り越えることができるのでしょうか。それは政治の力じやないのです。それは人間関係であり、信頼関係なんだと私は思います。

小川知事にしかできない、知事ならできる、駆け引きや交渉、個人的な人脈、政治力を今こそ發揮して頂きたいと思えます。知事ご自身が持たれている、あらゆるチャネルや人間関係で、関係者に働きかけをして頂き、解決への糸口を見い出して頂けないでしょうか。最後に政治家としての知事の見解を求めて再質問とさせて頂きます。よろしくお願ひします。

《小川知事》

先ほどご答弁を申し上げましたけれども、これまでも県議会の皆さんといっしょに、関係省庁に対して、「日田彦山線の早期復旧」に係る要望活動を実施してまいりました。また、九州地方知事会を通じても同様の要望をさせて頂いていただいているわけですが、引き続き、大分県、また、沿線市町村ともしっかり連携をいたしまして、また、私の持てる力、これを使って、国及び関係者に働きかけをしつかりやらせていただきたいと思います。

女性の育児休業後の職場復帰・キャリアアップ形成について NO.2

(新雇用開発課長)

県では、男性の育児参加に積極的に取り組む宣言企業の事例や、両立支援に関する国の助成金等を記載いたしました企業向けの手引書といたしまして、「イクボス・イクメンハンドブック」を作成し、これを子育て応援宣言企業に配布するほか、宣言企業の新規開拓の際に活用するなどして、男性の育児参加を支援する取り組みを行うよう、働きかけております。

また、子育て応援宣言の優良企業知事表彰の表彰基準に「男性の育児参加促進」の取り組みを追加して、男性の育児参加について顕著な功績があった企業を表彰するとともに、県のホームページ等で広く紹介しております。

こうした取り組みによりまして、平成30年8月末現在、1,175社が男性の育児参加に関する宣言をしております。

取り組みの一例を申し上げますと、「出産補助休暇」といった企業独自の休暇制度の整備に関するものや、「人事担当者から直接、対象の男性従業員に対する育児休業の取得を働きかける」といった職場環境づくりに関するものがございます。

(神崎委員)

ありがとうございます。先日ですね、私の地元で保育園の園長先生の話をうかがう機会がありまして、園児のみんなにですね、「お母さんとお父さんの口癖は何ですか?」そう聞いたそうです。すると、お母さんの口癖のナンバーワン、これはですね、「急いで・早くしなさい」これが口癖のナンバーワン。

お父さんはなんだと思います?お父さんのナンバーワンはですね、「ママに聞いて」これが一番だったそうであります。子どもって本当に正直だなあと感じました。また、親のことをよくみているんだなあーと。本当に女性っていうのは本当に凄いですね。

今、課長くすっと笑いましたけれども、その昔、心当たりでもあるんでしょうか。でもこれが実態だと思いますよ。この実態がこの資料に表れているんだと思うんです。

ところでですね、課長はイクボス宣言をされていると噂を耳にしましたが、ご自身の育児は、どうだったんでしょうか。自分の体験を部下に伝えることで、職員の方も安心して、子育て・育児に積極的にされたいと思います。新雇用開発課の職員の皆さんは、課長のことを育児に理解がある理想的な上司だと、評価されているんでしょうか?

これ、通告にありませんけど、もし、お答えできたら、お願いいたします。それと、このイクボス宣言っていうのは、部長とか知事もされてるんですか?

(新雇用開発課長)

はい。イクボス宣言は、本県では、知事をはじめ、部長、次長、所属長が全員行っております。

(神崎委員)

職員の方には、後で聞かれたらいいと思います。通告にありませんでしたので。今おっしゃられたように、宣言なり、取り組みっていうのは、県庁全体で行っていく必要があると思うし、所管の長だけが行うべきでもないと思います。これは、企業にも言えることだと思うんですね。

制度をつくっても、風土をつくらなければ何も意味がありません。したがって、子育て応援宣言企業や女性就業支援等々、様々な取り組みももちろん大事なんですけど、先ほどの園児のですね、園児たちのこのお母さんとかお父さんの口癖が変わってくるような、そういう社会全体の雰囲気を変えていくことこそが、私は大事だと思います。

私は、イクメン、あるいはイクボスっていうのが、男性が育児参加していないから生まれた言葉なのかなあと。共働きの夫婦と言うのは、育児も家事も分担せざるを得ません。イクメン、イクボスという言葉で育児をする男性がですね、もてはやされるっていうのは、個人的には少々違和感を感じております。

よく考えますと、父親って言うのは、自分の子どもを育てるのは当然のことです。私は、仕事以上に、子どもたちに接するのが楽しくて仕方がありませんでした。育児っていうのは、仕事とは比べ物にならないくらいにですね、幸福感が満たされます。

女性活躍推進や一億総活躍社会を実現するためには、男女がともに子育てをしながら社会で活躍できる環境づくりが重要です。特に子育て世代の30代前後というのは、この気力も体力も充実している年齢です。ここでの蓄積が、40代そして50代のときに、更に飛躍していけるようになるんだと思います。

そこで最後に、働く場における女性が活躍できる社会環境の整備をどのようにして進めていくのか、部長にお尋ねいたします。

(福祉労働部長)

少子高齢化や人口減少社会が進展する中で、女性がいきいきと働き活躍できる社会を実現することは、本県はもとより国にとって、そしてなによりも女性本人にとって大変重要であるというふうに考えております。

このため、県では、子育て女性就業支援センターにおける再就職支援や、子育て中の女性を対象としたパソコン技能の習得、キャリアコンサルタントの養成を目的とした職業訓練に取り組むほか、仕事と家庭を両立して働き続けられる職場環境づくりに向けて、「子育て応援宣言」の登録推進などに取り組んでいるところでです。

これらの取組みに加えまして、長時間労働の是正や、自分に合った働き方を選択できる雇用制度など、誰もが働きやすい魅力ある職場をつくっていく、企業の「働き方改革」を促進しているところでもあります。

今後とも、こうした取組みを着実に実施していくことにより、女性が妊娠、出産後も継続して働き続けることができる環境整備に努めてまいります。

(神崎委員)

是非その決意でお願いいたします。女性活躍がトレンドに終わってはいけません。男女の働き方、会社の仕組み自体をですね、変革しなければならぬと思います。

女性が活躍する上でですね、いま、部長、おっしゃられましたが、企業がすべきことは2つだと思うんですね。

1つは育児期以降も、きちんと仕事を続けられるようにすること。

2つ目は、女性自身が、実力をつけて、それを公平に評価して、結果として登用されるようにしていくこと。

是非、県においては、仕事と家庭の両立を推進し、新しい就業形態の開発に力をつけていただくことをお願いして質問を終わります。ありがとうございました。

平成30年度決算特別委員会
女性の育児休業後の職場復帰・キャリアアップ形成について NO. 1

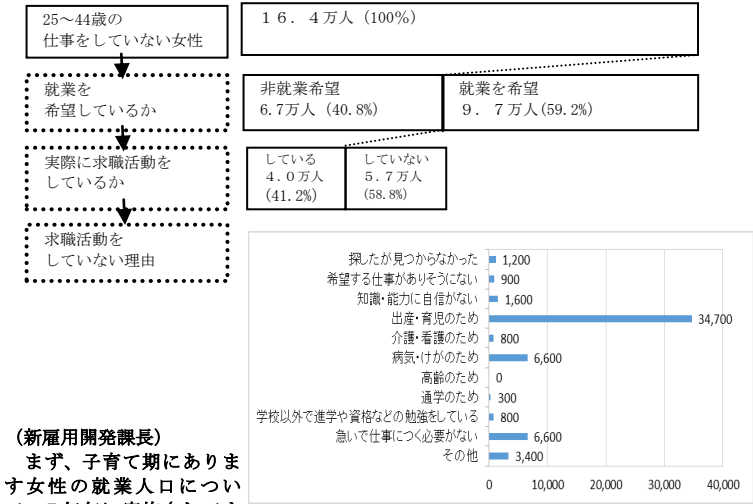


(神崎委員)
おはようございます。緑友会の神崎聡です。本日は、女性の出産・育児休業取得後の職場復帰や再就職のためのキャリアアップ形成について質問いたします。活力ある社会を維持するためには、今の時代、女性の活躍なしでは考えられません。
ただ、30代前後の女性は、出産や育児により離職されての方が多く、就職率が低くなっていると推測します。この改善を図るため、出産・育児休業取得後に再度職場に復帰しやすい環境や、求職活動や再就職のしやすい環境をつくることが必要だと考えます。
そこで本県における「25歳から44歳までの子育て期にある女性の就業状況に関する資料」、予め執行部に要請しておりますので、委員長お取り扱いをお願いいたします。

子育て期（25～44歳）の女性の就業状況について
1 子育て期（25～44歳）の女性の就業人口 総務省：就業構造基本調査から作成

	福岡県			全国		
	総数	就業人口	就業率	総数	就業人口	就業率
H19	685,800人	459,300人	67.0%	17,181,000人	11,654,200人	67.8%
H24	682,600人	479,900人	70.3%	16,639,800人	11,654,200人	70.0%
H29	636,000人	472,400人	74.3%	15,108,200人	11,492,800人	76.1%

2 福岡県の女性（25歳～44歳）のH29就業希望状況・求職状況 総務省：H29就業構造基本調査から作成



(新雇用開発課長)
まず、子育て期にあります女性の就業人口について、5年毎に実施されてます国の就業構造基本調査を基に、本県と全国平均の直近3回の推移を記載しております。平成29年の本県の当該就業人口は472,400人、就業率は74.3%となっております。その就業率の推移を見ますと、ほぼ全国平均と同じように伸びております。
続きまして、本県の子育て期にあります女性の平成29年の就業希望状況等についてでございますが、仕事をしていない女性の方は16万4千人おられまして、その約6割の9万7千人の方が就業を希望されておられます。そして、このうちの6割近くの5万7千人の方が求職活動をされておらず、その理由としては「出産・育児のため」が最も多くなっております。

(神崎委員)
今、説明していただきましたけど、この25歳から44歳、私の場合、一番脂の乗り切った、仕事に集中していた年代でありました。やむを得ず、仕事についていない女性が16万4千人もおられるというところにびっくりしております。約6割の9万7千人の方が就職を希望しているということですが、こうした方々がスムーズに就職に結びつけるようにして、働きながら安心して出産・育児を迎えるようにしなければならんと思います。
本県においては、県内4ヶ所に「子育て女性就職支援センター」を設置して、育児や家事で時間的制約の多い「子育て中の女性」の方に対する就職に向けての支援を行っていますが、就職を希望している人が、就職を希望しているんだけど、離職後のプランクがあって、再就職への不安を抱えている方や、家事や育児が忙しいということで仕事と家庭の両立に不安を感じている方、あるいは家庭の反対などで悩みを抱えておられる方など、出産・育児で離職された女性の方の状況は多分、様々だと思います。

そこでお尋ねいたします。子育て女性就職支援センターにおける支援の取り組みは具体的にどのようなようになっているのでしょうか。センター利用の人数と併せて、お尋ねいたします。

(新雇用開発課長)
センターにおける就職支援を受けるため、平成29年度には、2,844名の方がセンターを利用されております。このセンターにおきましては、様々な事情を抱えたお一人お一人に対し、きめ細かな支援を行っております。具体的に申し上げますと、面談での丁寧なカウンセリングや、就職に向けたセミナーを開催することによりまして、センターを利用された方が就職活動に一步を踏み出す勇気や意欲を持っていただけるように、働きかけを行っております。
また、家事や育児で時間的制約の多い子育て中の女性の方の就職をより身近な地域で支援するため、市町村が設置しています男女共同参画センターや地域子育て支援センター等へ出張し、現在、19ヶ所で就職相談を実施しております。
そして、就職活動に踏み出された方への支援に当たりましては、その方に合った求人の紹介のほか、面接の指導、場合によっては面接の同行支援も行いまして、就職に対して自信が持てるように、利用される方に寄り添った支援を行っているところでございます。

(神崎委員)
この就職につなげていくためには、この求職者側とですね、求人側のニーズを上手くマッチングさせることが必要です。センターにおいてどのように取り組み、成果を上げているのか、お尋ねいたします。

(新雇用開発課長)
センターが、求職中の子育て中の女性の方に面談を行った結果、就職を希望する職種といたしましては、事務職が約8割と大きく偏っております。
一方で、県内のハローワークにおける本年7月の求人状況を見ますと、事務職は約1割で、センターが独自開拓した求人におきましても、事務職は約4割に留まっております。
このように求職者の希望と求人状況のミスマッチが生じておりますので、求職者の適性や希望する勤務条件等をしっかりと踏まえた上で、希望職種以外の求人情報等を紹介するなどして、マッチングの向上に努めております。
また、企業に対ししても、求職者の方が応募しやすくなるよう、子育て中の求職女性が働きやすい勤務条件等についてのアドバイスを行っております。
このような取組みの結果、29年度の就職者数は882人となっております。平成21年度のセンター開設からの累計で、約53,000人の方の就職が実現しております。

(神崎委員)
今、答弁いただきましたけれど、このミスマッチングの解消が行政の大きな役割だと思えます。これからもですね、就職を希望している子育て中の女性が、一人でも多く就職できるように、頑張りたいと思います。
さて、「女性がいきいきと働き活躍できる社会」を目指す本県としては、この世代の女性に、もっとチャンスを広げて、キャリアをつけてもらう、そういうことが大事だと思えます。管理職への登用など、女性活躍の実現に向けては、仕事と子育てを両立しながら、能力を発揮できる職場環境づくりが重要と考えます。
本県では、その職場環境づくりを促進する、企業のトップ自らが従業員の仕事と子育ての両立支援を宣言する「子育て応援宣言企業」の登録拡大に取り組んでおり、現在、約6千5百社あると聞いています。課長、私がですね、会社の社長をしていた時に、「子育て応援宣言企業」に登録したんですけど、何番目だったか覚えてますか？

(新雇用開発課長)
6番目と聞いております。

(神崎委員)
8番目じゃないですかね。8番目です。当時、私も、県にですね、大変協力してきました。忘れないでください。
それで、登録企業では、数多くの両立支援の取組みが宣言されておりますが、このうち、円滑な職場復帰に向け、仕事のプランク等を軽減するような取組みがなされてるか、お尋ねします。

(白鳥新雇用開発課長)
本年8月末現在、育児休業からの円滑な職場復帰に関する宣言をしている企業は、848社ございます。このうち、育児休業復帰に向けた相談支援を行っている企業が最も多く、353社となっております。
ご質問の仕事のプランク等を軽減するものとしたしましては、育児休業中や職場復帰後における研修の実施がございまして、280社が宣言しております。
一例を申し上げますと、育休中における資格取得の支援やインターネットによるビジネス講座などの在宅講習、職場復帰後に商品知識取得のための研修などを実施している企業がございまして、このほか、育休中においても社内行事への参加案内や、社内報等の定期的な情報提供を行い、育休中の女性の方に仕事のプランク等を感じさせないような取り組みを行っている企業も多数ございます。

(神崎委員)
こんなですね。女性がいきいきと働き活躍できる社会には、企業としての取り組みが極めて大事です。女性の若手社員を含めて、社員の人材育成には十数年かけて投資してますから、この結婚・出産・育児で辞められると会社にとっては痛手だと思います。事例を挙げていただきましたけれど、もっとですね、取り組み企業を増やさないといけないと思います。是非ですね、子育て応援宣言企業全体にですね、働きかけをお願いします。
また、女性のキャリアアップに不可欠な就業継続を図る上で、男性の育児参加を促進する環境づくりが重要と考えます。県では、子育て応援宣言企業に対する取り組みの柱の一つに、「男性の育児参加を促進する環境づくり」、これを設けて、関係企業に当該宣言の働きかけを行っているかと聞いております。そこで、これまでの働きかけの成果と、どのような取り組みが宣言され、実施されているのか、お聞かせください。

- 日本産山梨県を利用して、水郷町の銘酒を造ります！
- ★赤土より湧く水と水たたる日田～「山梨水郷」の地から銘酒造り
- 富士山麓のほぼ中央、大分県の西部に位置し、太平洋と日本海に面する日田市。日田市の地味に多くの自然が共存し、これら山岳から湧き出る豊富な水資源が利用できる。佐賀の気候や水質を再現している。
 - 日田は、恵た空気にあふれる水に恵まれ「山梨水郷」の地であり、さらに、深い峡谷に流す多くの清流が水質を向上させている。
- 井上酒造、赤松酒造の銘酒造り
- 日田市山梨の銘酒蔵、山梨酒造の「山梨上流酒」、「老松酒造」をみる酒蔵のまち
- 市内酒造会場の銘酒ツアー、酒類館で銘酒を鑑賞
- 日田酒蔵をめぐり、酒類館に「山梨上流酒」があり、青森県に嫁ぐこと「山梨の嫁ぐ酒（山梨県産白葡萄酒）」がある。また、青森県

平成30年度決算特別委員会（委員）

J R 日 田 彦 山 線 の 復 旧 後 の 利 用 促 進 に つ い て N O . 1



（神崎委員）

緑友会の神崎聡です。一般質問では、J R 日田彦山線の復旧について、お尋ねしましたけども、本日はJ R 日田彦山線の利用促進について、お尋ねしたいと思います。

私の一般質問で、知事のほうから7月20日に開催された検討会で、沿線市町村からは、日田彦山線の復旧後の継続的な運行を確保するため、利用促進のための具体的な取り組みを行うこと及びその内容について、それぞれ提示され、その上で年度内に議論をまとめると述べられています。

まず利用促進のための具体的な取り組みの内容について、それぞれの沿線自治体では、どのような内容を提示されたのかお聞かせ下さい。

（交通政策課長）

復旧後の利用促進策についてでございます。

添田町では、

- ・J R 欽遊舎ひこさん駅を利用する買い物客に対する特典の設定
 - ・日田彦山線を利用した「めんべい工場ツアー」の開催
 - ・J R を利用して通学する高校生に対する定期券の割引助成 等
- そして、東峰村の方では、
- ・J R 彦山駅から「民陶むら祭」会場までの無料シャトルバスの運行
 - ・通学定期券購入者への助成制度
 - ・大行司駅の喫茶交流スペースの設置 等
- を検討されております。

（神崎委員）

このときの会議で、J R 九州側の反応はどうでしたでしょうか？自治体の今の提案に対して、J R 九州はどのような感想を持たれたのか。受け入れそうな感じだったのか、どうなのかお聞かせ下さい。

（交通政策課長）

この利用促進策でございますけれども、まだアイデア段階ということでございますので、これから具体的な肉付け、あるいは、効果的な実施方法等を深掘していくということになりますので、J R 側としてもそのような認識で受け止めておられるというふうに思います。

（神崎委員）

私がいちばん心配しているのは、J R がこの提案をどういうふうに思ったのかということなのです。要は、J R 側ときちんと意思の疎通が図られているのかどうか、課長は交通政策課長に就任されて、まだ半年しか経っていません。従いまして、J R 側と人間関係を取れているのかというところがちょっと心配であります。それが、私はいちばん大事なところじゃないのかなと思うんです。

自治体の利用促進の提案について、このJ R 側の反応を確かめる必要があるのではないのでしょうか。J R 九州との信頼関係・人間関係の構築が極めて大事であります。検討会や協議の場だけでなく、それだけでは、なかなかJ R の本音というのが、わからないのだと思います。部長は7月20日の検討会に出席されておりますけれども、どのように考えますでしょうか？

（企画・地域振興部長）

委員のご指摘の通り、この日田彦山線の復旧を始めと致しまして、J R 九州、この鉄道のネットワークの維持、このためには、私ども自治体とJ R 九州、それがまず基本的な信頼関係、これを構築して、その信頼関係の下で議論していくということが非常に重要であるというふうに考えております。その信頼関係の構築に関しましては、復旧会議、あるいは検討会、これ以外にも毎週担当者レベル・事務局レベルでの事務局会議、これも毎週重ねておりまして、こういうことを通じて、数多く顔を合わせ、数多く議論をするということで、今、信頼関係を構築しようとしているところでございます。

（神崎委員）

そこが一番大事ですので、しっかり築いてもらいたいと思います。ところで課長、この検討会で、J R 九州側のほうから、利用促進のための具体的な提案はなされたのですか？

（交通政策課長）

具体的な利用促進策については、自治体側から提案するというのが基本的な立場になっております。

（神崎委員）

日田彦山線の利用促進は、沿線自治体からの提案だけじゃなくて、J R 九州に提案させるべきだと思います。J R 自身の問題でもあると思うんです。しっかりJ R 九州に提案してもらって、それに対して、県とか沿線自治体、旅行会社、こういうところがどういう支援ができるのか、応援ができるのかというところを考えていく必要があると思います。J R 九州からも提案されるようにしてもらってはいかがでしょうか？

（交通政策課長）

先ほど申し上げましたように、まだアイデア段階だということもございまして、積極的にJ R 側のほうからも、そういった利用促進策を出して頂くように協議を進めてまいりたいと思います。

（神崎委員）

その会議の中で、議論をお願いします。

今被災を受けている沿線自治体からだけの提案なのですがけれども、この検討会で議論されている利用促進は、日田彦山線の復旧後の継続的な運行の確保することが目的ですよね。だとすれば、もっと幅広い意見集約をすべきではないでしょうか。少なくとも日田彦山線の沿線の北九州から日田まで全ての市町村、これもヒアリングすべきだと思いますけれども、どのようにお考えでしょうか？また、関係する観光協会、旅行会社などの情報はどのようになっていますでしょうか？

（交通政策課長）

ただいま行っております「日田彦山線復旧会議」では、被災し、現在、不通となっている区間の鉄道での復旧を行うにあたって、その不通区間の復旧後の継続的な運行の確保するための利用促進策について、検討しているものでありますために、全ての沿線の自治体から利用促進策についてのヒアリングをするということについては考えておりませんが、被災市町村を含む日田彦山線全線につきましては、沿線7市町村で組織をします「日田彦山線活性化推進沿線自治体連絡会」というものがございまして、従来から利用促進策を協議し、実行してきたところでございます。県は、J R 九州とともに、ここにオブザーバーとして、この連絡会に参画をしておりますところでございます。

沿線自治体全体としましては、今後とも、この連絡会を活用しまして、利用促進策を検討していきたいというふうに考えております。

なお、連絡会が利用促進のための具体的な取り組みを行う際には、観光協会や旅行会社にも協力をいただいているところでございます。

（神崎委員）

この沿線自治体が、沿線の人口が激減している状況の中で、沿線の自治体から、通学・通勤あるいは、通院、そういった積極的な呼びかけによる乗車というの、なかなか限界があると思うんです。

沿線自治体が考えるべきは、一つ一つの駅舎を中心にまちづくりの中にどう位置づけるのか。例えば、医療や福祉施設、買い物などの商業施設など、まちづくりと一体となった持続可能な地域の公共交通ネットワークを実現するために、その手段として、この鉄道による移動を考える、そういう検討が必要ではないかと考えます。

沿線自治体は、駅の重要性について、どのように考えているのか？お聞かせいただきたいのと同時に、県の認識もちょっと聞かせて下さい。

（交通政策課長）

沿線の添田町、東峰村では、これまでも駅を活用して活力あるまちづくりを進めてこられました。

たとえば、添田町では、特産品販売や観光振興を目的に、平成17年に開設をした道の駅「欽遊舎ひこさん」に、平成20年に鉄道駅を併設しました。

また、J R 添田駅に併設しました町有施設を観光拠点とする計画もあるというふうに聞いております。

東峰村のほうでは、大行司駅の駅舎を観光客と地元村民との交流の場として活用するとともに、筑前岩屋駅には名水百選に選ばれた岩屋湧水の水くみ場を設置するなど、駅を交流の場や観光振興に活用してきました。

このように、沿線町村は、駅をまちづくりの重要な拠点として、その有効活用を進めておられます。

県としましては、交通の結節点である駅を中心に、まちづくりと一体となった交通網の形成を進めていくことは、重要であるというふうに考えております。

（神崎委員）

この駅というのは、まちの玄関口であります。顔であります。添田町もそうなんです、無人駅となった駅舎の活用やJ R からの譲渡、あるいは駅をまちづくりの中核に据えたコンパクトシティの構築など、鉄道駅を拠点としたまちづくりが地方創生の起爆剤になるのじゃないかと思えます。

次に、日田彦山線への観光列車の誘致についてお尋ねいたしますが、J R 九州及び県、沿線自治体は、これまでどのような観光列車の誘致に取り組んできたのか。簡単にご説明ください。



祝 糸田町制施行80周年記念式典

糸田町町制施行80周年記念式典が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

80年に及ぶ長い歴史の中、糸田町の発展にご尽力されてきた佐々木町長、井手元議長をはじめ、歴代の町長、議長、関係の皆様深く敬意を表します。

糸田町は「いとよき田」という名前の由来のとおり、豊かな自然と湧水、肥沃な土壌に恵まれた水田地帯として発展するとともに、古くは「太宰府」と「鶴岡」を結ぶ「太宰府官道」が通る交通の要衝の地として栄え、明治から昭和の時代には、石炭産業とその関連産業の隆盛を受けて、我が国の近代化を支えてこられました。

糸田町では、肥沃な土壌で育まれた農作物、田川地域の玄関口に位置する地の利という強みを活かし、「道の駅」と「道の駅」と「道の駅」と「道の駅」などの拠点施設の整備を通じて、農業と観光の連携・産業振興といった分野に積極的に取り組まれており、町内外から多くの方が訪れ、大変賑わっているところです。

糸田町が80周年を契機に益々発展されますことお祈り申し上げます。



80周年記念式典のオープニングとして「和太鼓たぎり」の演奏が行われました。糸田町の地域活性化と伝統文化の伝承及び普及を図るために結成された「和太鼓たぎり」ですが、ご存知の通り、第19回日本太鼓ジュニアコンクール全国大会優勝・内閣総理大臣賞を受賞され、ことしも福岡県の代表として全国大会に出場されます。

オープニングセレモニーを飾る素晴らしい演奏は、今後の糸田町の躍動と発展を裏付けるような迫力でした。オイスカの皆さんも糸田町とは長年にわたり交流されています。地元出身の阿武松親方も観光大使として糸田町のPRに積極的に取り組んで頂いています。



略歴
昭和53年 糸田町立糸田中学校卒業
昭和56年 福岡県立田川高等学校卒業
昭和60年 日本大学商学部会計学科卒業
昭和60年 民生セメント株式会社入社
平成2年 株式会社民生情報システム監修(分社化)
平成12年 株式会社民生情報システム 取締役
平成13年 株式会社民生情報システム 代表取締役
平成23年 福岡県選出(田川郡区) 初当選
平成27年 福岡県選出(田川郡区) 2期目の再選

福岡県選出での主な所属
緑友会福岡県団 幹事長
県議会条例提案検討委員会 委員
県文書常任委員会 委員
こども・子育て支援調査特別委員会 委員
青少年アンビシャス運動推進本部 参加
福岡県立図書館協議会 委員
平成27・28年度予算特別委員会 理事兼委員
福岡県文化議員連盟 副会長
福岡県タイ友好議員連盟 副会長
福岡県果樹振興議員連盟 事務局長
福岡県森林・林業・林産物活性化促進議員連盟 会計幹事
福岡県日米友好議員連盟
福岡県日米友好議員連盟
福岡県日中友好議員連盟
福岡県国際交流推進議員連盟
福岡県ベトナム友好議員連盟
福岡県日台友好議員連盟
福岡県防衛議員連盟
遠く地域活性化対策福岡県議員連盟
産地地域活性化対策福岡県議員連盟
オイスカ国際活動促進福岡県議員連盟
福岡県観光産業振興議員連盟
福岡県スポーツ議員連盟
九州・沖縄未来創造議員連盟
九州の自立を考える会
福岡県農政連 全体委員
日本全国福岡支部 幹事
田川地方バイパス延伸推進期成会 顧問
田川広域観光協会 理事
八木山バスターミナル4車線化整備促進福岡県議員連盟事務局長
下関北九州道路整備促進福岡県議員連盟

こうざき聡事務所
〒824-0602 田川郡添田町大字添田1417
TEL:070-4435-9511 FAX:0947-82-5533
こうざき聡
こうざきさとし



祝 川崎町制施行80周年記念式典

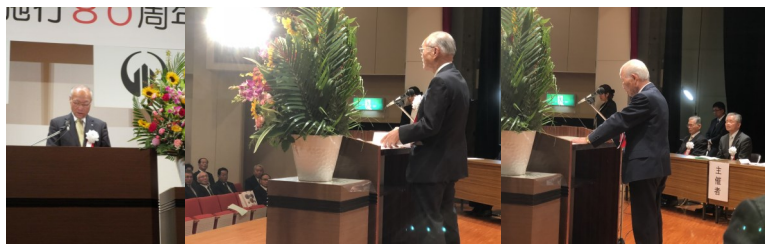
川崎町制施行80周年、誠におめでとうございます。手嶋町長、北代議長をはじめ、町議会議員の皆様、そして町の発展に尽くしてこられた多くの町民の皆様心からお祝い申し上げます。また、川崎町の発展に大きな功績をあげられ、本日、表彰を受けられます皆様に、重ねて、お祝い申し上げます。

川崎町では、明治から昭和30年代までは石炭産業が栄え、わが国の近代化と経済を力強く牽引してこられました。しかし、エネルギー革命により、石炭産業が衰退する中、川崎町は新たな発展の道を歩むことになりました。この一世紀は、川崎町にとって、まさに激動の時代でありました。

川崎町は自然や文化の魅力にあふれ、大きな発展の可能性をもった町であると思っています。南に豊峰彦彦山、北に福智山を仰ぎ、中元寺川をはじめ、いくつもの川が流れ、「田代の森」や「安宅棚田」など、素晴らしい景観、豊かな自然があふれています。この恵まれた自然環境に加え、「雪舟」が築いた国指定名勝庭園「藤江氏魚楽園」や「光達寺輪蔵経蔵」など、歴史や文化が薫るところです。

そして、何より温かい人情にあふれており、まさに地域資源の宝庫と言っても過言ではありません。このような恵まれた自然や歴史・文化を活かしながら、観光や農産物など、川崎ブランドづくりに取り組まれ、近年では、西日本最大規模のパニイベント「かわさきパン博」や、農産物直売所「De・愛」をはじめとして、食を通じた観光にも取り組まれており、「食と農のまち・川崎」に、町内外の多くの人を惹きつけています。

川崎町がこの町制施行80周年を契機に、益々発展されますこと、そして、町民の皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。



オープニングでは、川崎町制10周年を記念して作られた川崎音頭が披露され、ふるさとを思う気持ちが、町民一人ひとりに浸透するように、次世代に引き継いでいくようにとの思いが込められて踊っておられました。



10月9日 添田町役場日田彦山線復旧打ち合わせ
10月10日 畑中茂広福岡県議会副議長就任祝賀会
10月12日 下関北九州道路整備促進議員連盟
10月12日 森林・林業・林産物活性化議員連盟
10月13日 福智スイーツ大茶会
10月13日 県立田川科学技術高等学校体育大会
10月13日 日本大学校友会北九州支部総会
10月14日 糸田町制80周年記念式典
10月14日 しじみ祭り
10月16日 県スポーツ議員連盟
10月16日 医療問題に関する調査活動
10月17日 添田町戦没者慰霊祭
10月17日 環境問題に関する調査活動
10月19日 河川工事等地元陳情活動
10月20日 県スポーツ議員連盟・神奈川県議会
10月21日 田川郡身体障害者体育大会
10月21日 添田神社秋季大祭
10月21日 杉原英治先生叙職祝賀会
10月22日 地方創生・一極集中に関する調査活動
10月23日 医療・医師不足問題に関する調査活動
10月23日 筑豊中経協設立40周年記念式典
10月24~25日 会派管外視察(神奈川・東京)
10月26日 麻生太郎副総理・財務大臣
10月26日 衆参議員会館(国会議員)
10月27日 福岡町政老会・豊後祭
10月27日 えだふり里まつり
10月27日 全国未婚サミットin赤村
10月27日 岳陽同窓会
10月28日 川崎町制80周年記念式典
10月31日 環境問題に関する調査活動
■平成30年1月
1月1日 主要地方道八女香春線国道昇格期成会
1月1日 豪雨災害被災地支援チャリティー
1月1日 遠く医療に関する調査活動
1月2日 福岡県果樹振興議員連盟視察(八女)
1月3日 第13回TAGAWAコンペティション炭坑祭
1月3日 上津野収穫祭
1月4日 故崎崎羊子(母)一周忌
1月5日 貴乃花部屋お別れ激励会
1月6~7日 文教常任委員会管内視察
11月8日 上野焼文化財保護に関する調査活動
11月9日 松山政司参議院議員政経セミナー
11月10日 権現祭り、第97回福岡同窓会総会
11月11日 ふるさと香春祭り
11月11日 2018まつりかわさき
11月14日 県議連部要望活動
11月14日 MOA美術館田川児童作品展
11月14日 田川地区暴力団等追放決起大会
11月16日 上ライオンズクラブ例会
11月17日 福岡県立大学秋祭典
11月17日 和田俊彦氏旭日堂光栄章記念祝賀会
11月18日 県立図書館会館100周年記念式典
11月19日 法光寺開法会「秋の法座」
11月20日 柏木商店会・政策審議会
11月22日 防災安全がらみ贈呈式(板硝子商工組合)
11月23日 福岡県ねりん・スポーツ・文化祭
11月23~24日 緑友会視察・調査活動
11月25日 福岡フットボールフェスティバル2018
11月26日 議員連盟・精査より審議会
11月26日 県議会議員政策提案条例検討会
11月27日 県スポーツ議員連盟
11月29日 暴力団追放!地域決起大会(筑豊地区)
11月30日 こども・子育て支援調査特別委員会
■平成30年12月
12月3~21日 県議会12月定例会
12月5日 年末年始・安全安心特別警戒出動式
12月7日 防衛関係団体名刺交換懇談会
12月9日 大家敏志参議院議員政経フォーラム
12月10日 日米友好議員連盟視察講演会
12月11日 県台湾友好議員連盟意見発表会
12月11日 タイ王国福岡総領事館開設記念行事
12月15日 福岡県農政連・18 JA県青協懇談会
12月16日 下関北九州道路整備促進大会
12月23日 第九を歌い唄いながら2018

神崎聡事務所移転のお知らせ
こうざき聡事務所を平成31年3月1日(金)
より下記の通り、事務所を移転・開設致します。
記
日時 3月1日(金曜日)11時より
場所 添田公園入口(戸渡道沿い)